

2010年 湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」成果報告書  
各地でのアートイベントにおけるメディア戦略ミーティング

政策・メディア研究科後期博士課程3年 田島悠史

2011年7月から10月にかけて、日本各地にてアートイベントと電子メディアについての考察を深めるアクティビティを行った。実施場所は三重県（亀山市、アート亀山）、埼玉県（朝霞市、studio u5）をはじめとして複数回行った。

### #action1：アート亀山2011

「アート亀山2011」は三重県亀山市で開催されているアートイベントである。私は2010年に出席したことから、当団体と関係を深め、今年度のアクティビティを行う契機となった。今回は、学生によるアート団体“Home Sweet Home production”の協力の下、twitterやfacebookを通じた情報配信やコラボレーションについて考察を行った。



■ワークショップ「はなもり」風景

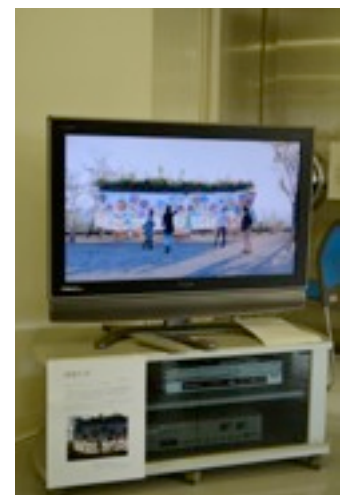
協力団体は「はなもり」という住民参加型ワークショップを企画していた。これは、年齢やスキル問わず地域の住民に、大きな布に絵を描いてもらい、最終的に商店街中央に展示する、という試みである。この試みに対して、twitterやfacebookを用いたの広報や、連絡共有、ワークショップのリアルタイム報告などを行った（twitterについては#artkameyamaという既存のハッシュタグを利用した）。多くの地域住民の参加があったことから、一定の成果があったのではないかと考えられる。



アート亀山2011の舞台となる商店街。シャッターが目立つものの、アートによってまちを活性化しようという意気込みが感じられた。



完成した作品は商店街中央の公園に展示し、それをtwitterを通して配信した。



また、展示するのみならず、映像を通して参加できなかった人に対しても体験の共有を試みた。今後の展開として、USTREAMやYouTubeなどを用いた外部との共有や、新しいメディアを開発しての参加などが考えられる。

## #action2 : studio u5

「studio u5 (スタジオ ユーゴ)」は埼玉県朝霞市に存在する多目的レンタルスペースである。アーティスト支援組合

「studio仕組」が運営することから、アーティストによる利用が多い。「studio仕組」とは、本基金の支援も受けたイベント

「みなとメディアミュージアム」において交流したこともあり、今年度のアクティビティを行う契機となった。



■実験メディア画面

ここでは、アーティストの地域レコメンド文を表示したインタフェースの画面を展示し、住民の反応などを観察した。目的としては、アーティストの地域に対する視点が、地域に対して何らかの効果を生むかどうかを検証するためである。結果としては、ある女性が「昔、この道路を歌いながら通った」という旨のことを述べたことが最も面白い反応であった。

また、本筋とは違うが現在展示しているのパブリックアートに対する言及もあり、「芸術公害」と言われていたパブリックアートを復活させる手がかりにもなると考えている。



コンテンツの風景画面。同日、会場ではレコメンド文を執筆したアーティストによるワークショップが行われた。



例に挙げた道路である。



スポーツ用品店にある銅像。地域の子どもがとても喜んでいた。このことは、地域に対する「愛着」や「思い出」となる可能性を持っている。